

印西市の教育水準向上を目指す人材バンク創設を求める会とのグループ別対話会(ご意見と回答)

1. 日時

令和 8 年 6 月 6 日(土)15 時~16 時

2. 場所

コスモスパレット パレット I 会議室 1

3. 出席者

印西市の教育水準向上を目指す人材バンク創設を求める会、市長、秘書広報課

4. 内容

(1)教育改革・学び方の転換について

関係課:教育政策課、学務課、指導課、教育 DX 推進室

【参加者発言(要旨)】

- ・今の文部科学省の教育改革は、暗記型教育から価値創造型教育への転換が大きなテーマになっている。知識を覚えるだけではなく、問題発見力や創造性につなげる探究型の学びが求められている。
- ・小学校では算数が得意でも、中学校で数学になると抽象的な考え方に変わるため、そこでつまづく子どもが多い。小学生の段階から数学的思考を育てていくことが必要ではないか。
- ・英語についても、試験のための英語ではなく、人口減少や国際化が進む中で、実際に使える英語や国際社会で活躍できる英語教育が必要である。
- ・東京都立富士高校などでは探究型学習や海外研修が進められており、地方でもそうした学びに触れられる環境づくりが必要である。
- ・子どもたちには偏差値や進学実績だけではなく、自分で考え、自分で生きていく力を身につけてほしい。

【市長発言(要旨)】

- ・英語教育と探究学習は、教育委員とも日頃から議論している大きなテーマです。英語教育については、海外派遣事業など様々な取組を行っています。
- ・ただ、私自身も英語には非常に苦労してきました。日本の学校教育だけで、本当にビジネスレベルの英語を使えるようになるのかという課題意識は持っています。
- ・生成 AI を含めて変化が非常に速く、教える側が答えを持つ前に次の技術が出てくる時代になっています。教育現場も含め、皆が試行錯誤している段階だと思っています。

・こどもたちには、本質的な思考力、言語を操る力、変化に対応する力を身につけてもらいたいと考えています。

【指導課補足】

・市の教育ビジョン「こども 学ぶプロジェクト」では、「グローバル社会を見据えた学びの推進」を4つの施策の1つに据え、国際理解教育を推進しています。

・具体的な取組としては、小中学校9年間を通じた英語授業の実施(教育課程特例校)、中学校におけるAI搭載英会話アプリの導入及びオンライン国際交流の実施などを行っています。

・その他、中学生のオーストラリア派遣研修、小学生の英語研修(夏季休業中)におけるオンライン国際交流、ホームステイの受入れ募集事業など、国際理解教育の推進を図っています。

(2)AI・デジタル教育活用について

関係課:教育政策課、学務課、指導課、教育 DX 推進室

【参加者発言(要旨)】

・AI は既に作曲、俳句、漫画制作、デザイン、プログラミング、教材作成など様々な分野で使うことができ、これまで専門職だけができたことを短時間で実現できる時代になっている。

・こどもたちは AI と共に生きる世代になる。AI を知らないことで、自分の可能性を狭めてしまうこともある。

・一方で、AI に頼り過ぎることで、自分で考えなくなる危険性もある。ロジカルシンキングやクリティカルシンキングを育てながら活用する必要がある。

・AI を禁止するのではなく、正しい使い方を教える教育が必要である。市民向けにも新しい技術を学べる場が必要ではないか。

【市長発言(要旨)】

・AI 時代に誰も完全な答えを持っているわけではありません。私たち自身も試行錯誤しています。

・これまで価値のあったスキルが AI によって代替される場面は増えていますが、その前提となる思考力や目的設定の力は依然として重要です。

・本質的な思考力がなければ、AI を使いこなす側ではなく、AI に使われる側になってしまうと思っています。

・変化を前提として、学び続けられる人材を育てていくことが重要だと考えています。

(3)国際化・外国人材活用について

関係課:企画政策課

【参加者発言(要旨)】

- ・日本全体では人口が減っている一方で、印西市は人口が増えており、外国人住民も増えている。中国、ベトナム、フィリピン、アメリカ、インドなど様々な国籍の方が暮らしている。
- ・特にインドなどからは IT エンジニアをはじめ優秀な人材が来ている。そうした方々が地域の中で活躍しながら暮らしていけるとよいのではないか。
- ・外国人の方が印西市で働いたり地域に関わろうと思っても、相談先やつながる仕組みが少ないように感じる。仕事や地域活動につながるネットワークがあるとよい。
- ・外国人材を受け入れる際は、在留資格の確認だけでなく、日本の法律や生活ルールを理解してもらいながら、地域の中で安心して生活できる環境づくりも大切だと思う。
- ・今の人材バンクは人材紹介が中心になっているが、人材の「材」を「財」に変えて、外国人材やシニア人材、教育人材など様々な人をつなぐ仕組みにできたらよいと思っている。単なる就職支援ではなく、人材育成や地域への還元にもつなげていきたい。
- ・印西市には様々な知識や経験を持った人が集まっているので、そうした人たちがつながりながら地域の教育や活性化に関われるようになるとよい。

【市長発言(要旨)】

- ・外国人住民については、「外国人」という言葉で一括りに議論すること自体に違和感があります。世界には非常に多くの人々がおり、それぞれ国籍も文化も職業も能力も異なります。特定の事例だけを見て議論するのではなく、一人ひとりの背景や状況を踏まえて考える必要があると思っています。
- ・海外人材の受入れについては、シンガポールなどのように高度人材を積極的に受け入れる考え方もあります。日本がどのような方向を目指すのかは別として、感情論ではなく冷静で丁寧な議論が必要だと考えています。
- ・印西市では現在、国際化推進方針の改定を進めています。その中で、印西市としてどのような国際化を目指すのか、外国人住民とどのように共生していくのかについて整理していきたいと考えています。
- ・この場に参加されている方々と、外国人住民全体では背景や状況も異なります。それぞれの実態をしっかりと把握した上で、印西市として必要な施策を考えていきたいと思っています。

(4)シニア人材・人材バンク構想について

関係課：教育政策課、企画政策課、高齢者福祉課

【参加者発言(要旨)】

- ・定年後も豊富な経験や専門知識、国際経験を持つ人材は多いが、その能力が十分に活かされていない。
- ・現在の人材バンクを単なる人材紹介ではなく、「知識の継承」や「地域への還元」まで担う仕組みに発展させたい。
- ・教育、地域活動、企業支援など様々な場面でシニア人材と地域ニーズをつなげていくことが重要である。

【市長発言(要旨)】

- ・シニア世代には本当に素晴らしい知識や経験を持つ方が多いと思っています。
- ・市役所でも人手不足の中で多くのシニアの皆様に力を貸していただいています。
- ・活躍したい方と地域課題を結びつける仕組みは大切だと考えています。活躍機会の創出について引き続き考えていきたいと思っています。

(5)高等教育機関・インターナショナルスクール等について

関係課：企画政策課、教育政策課

【参加者発言(要旨)】

- ・都内のスーパーサイエンスハイスクールや神戸市の全寮制国際教育機関などでは、探究学習、ICT 教育、英語教育を組み合わせた先進的な教育が行われている。こうした取組を通じて、国際バカロレア (IB) 資格の取得や海外大学進学につながる教育環境が整備されている。
- ・英語は教科として学ぶだけでは不十分であり、授業だけでなく日常生活も含めて英語で過ごす環境が重要である。実際に英語を使いながら生活することで、実践的な語学力や国際感覚を身につけることができる。
- ・印西市は外国人住民や海外人材も増えており、国際教育への需要は今後さらに高まる。インターナショナルスクールや高度教育機関の整備は、地域全体の教育水準向上にもつながる。
- ・AI が急速に発展する時代だからこそ、単なる知識習得ではなく、ロジカルシンキングやクリティカルシ

ンキングなど、自ら考える力を育てる教育が必要である。AI を使いこなす力と、人間にしかできない思考力の両方を育成していくべきである。

- ・有名大学への進学や偏差値だけを目標とするのではなく、自分で考え、自分の力で生きていけることも育てたい。

- ・語学学習そのものは AI やアプリでもできる時代になっているが、人と人との関係づくりや異文化の中で生きる力は実際の経験を通じてしか身につかない。こどもたちには地域だけでなく世界にも目を向け、多様な価値観に触れながら成長してほしい。

【市長発言(要旨)】

- ・インターナショナルスクールや高専については、将来的な選択肢として模索しています。

- ・少子化や施設整備コストの課題もありますが、関係機関と様々な意見交換を進めています。

- ・若い方には一度地域の外へ出て、様々な経験を積んでほしいと思っています。その経験を持って地域に戻り、まちづくりや人材育成に活かしてもらえることが理想です。

(6) 公共施設利用の柔軟化について

関係課:生涯学習課

【参加者発言(要旨)】

- ・フリースクールやインターナショナルスクールなど新しい学びの形が広がる中で、公共施設の利用条件が実態に合わなくなっている。

- ・地域教育活動や学びの場として、公共施設をより柔軟に利用できるようにしてほしい。

【市長発言(要旨)】

- ・行政の制度やルールが社会の変化に追いついていない部分はあると認識しています。

- ・公民館利用のルールなどについては現在見直しを進めており、利用の緩和等について検討しています。

(7) 今後の印西市の教育と人材育成について

関係課:教育総務課、学務課、指導課、教育 DX 推進室

【参加者発言(要旨)】

- ・AI 時代や人口減少社会においても、こどもたちが地域や世界で活躍できる人材に育てほしい。
- ・東大を目指すだけでなく、自分の力で生きていけるこどもを育てたい。
- ・外の世界も見ながら地域に貢献できる人材になってほしい。

【市長発言(要旨)】

- ・これからは今日の正解が明日には変わる時代です。その変化を恐れない人たちを増やしていく必要があります。
- ・印西市の教育の中で、変わり続けることを楽しめるこどもたちを育てたい。自分らしく変わり続けながら、自分も幸せで、結果として周囲や社会も幸せにできる人材を育てたいと考えています。